



神戸大学文学部ホームページ

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/>

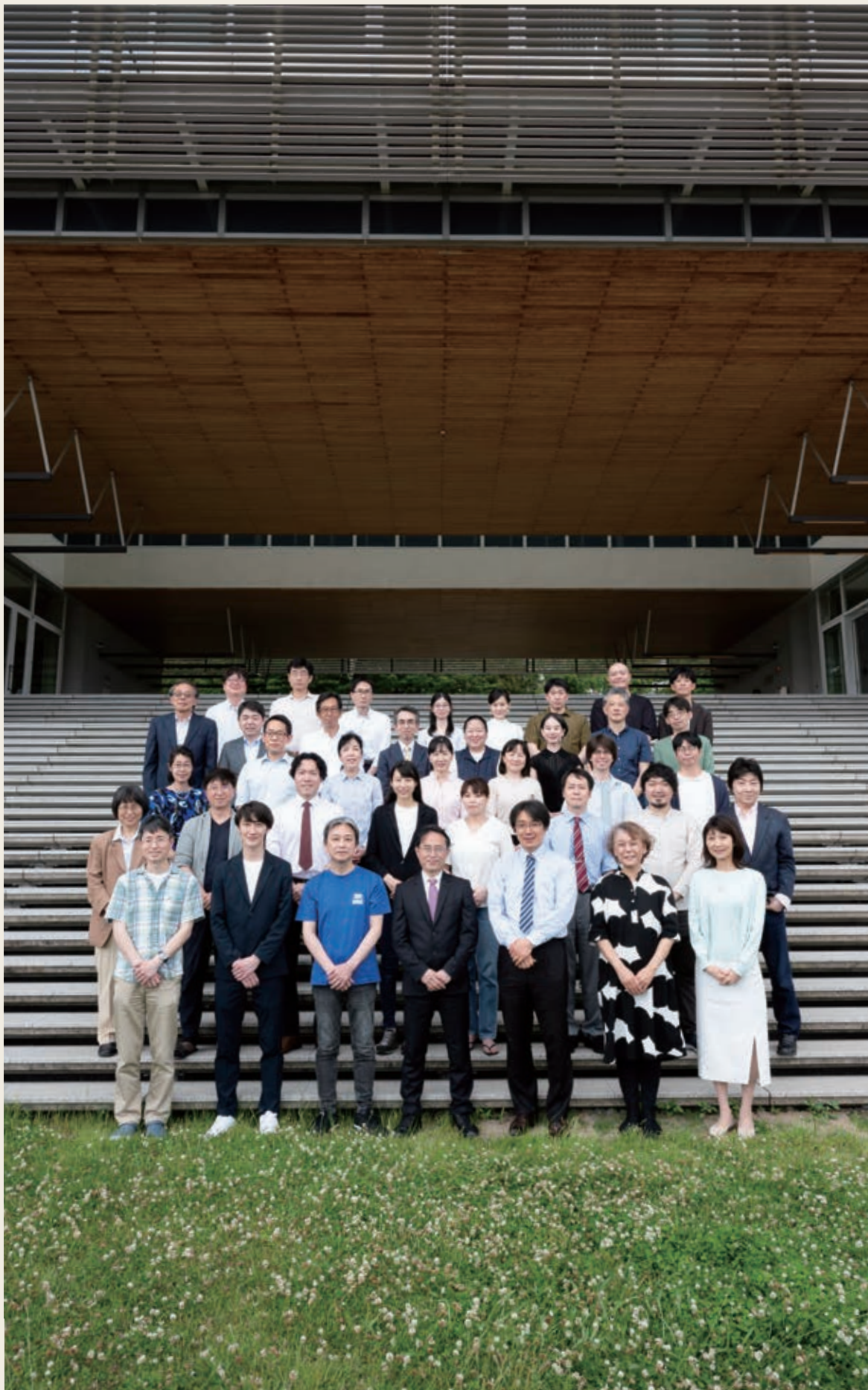
神戸大学文学部はみなさんの

「知の水先案内人」です

— オックスフォード大学の
学生たちとの交流に触れながら

こんにちは。私は文学部教員の茶谷直人です。古代ギリシア哲学と生命倫理学（現代医療の倫理的問題を考察する分野です）が専門です。前者に関しては、「人間の幸福とは何か」「幸福な生き方は快楽・友情・正義・有徳さなどどのような関係にあるのか」「自然に目的はあるのか」「心（魂）と身体の関係は」といった問題を、プラトンやアリストテレスのテキスト分析を通じてこれまで研究してきました。（授業でも、多くの学生たちがこれらの問題と一緒に考察してくれています。）後者については、現代医療や科学技術社会におけるインフォームド・コンセント（患者や市民への適切な説明と同意）のあり方を考察しています。

ところで私は現在、「神戸オックスフォード日本学プログラム（Kobe-Oxford Japanese Studies Program）」という事業（普段はKOJSPと略しています）のリーダーを務めています。KOJSPは、オックスフォード大学（そう、あのオックスフォード大学です）のアジア中東学部で日本学を専攻する2年生全員（毎年10



文学部生になったら — 在学生に聞く —

田口 翔英
(TAGUCHI Shohei 3年生)
清風高校卒業

(この文章は2年生時のものです)



1週間の時間割					
	月	火	水	木	金
1	芸術と文化 A	化学 A	現代の経済 B		博物館資料論
2	東洋史	日本史	哲学特殊講義	西洋史	社会学概論
3		西洋美術史	博物館経営論	中国語	美術史調査法
4		西洋美術史演習		日本美術史演習	美術史資料演習
5			日本国憲法 1		

2年生の前期になると、そろそろ教養科目は取り終える頃になります。僕は美術史専修なので、美術史の授業は必ず取ります。加えて学芸員資格と社会学の教員免許の授業も取っているので、取らなければいけない授業がたくさんあり、同級生と比べるとコマ数は多いほうです。

ある1日の過ごし方

7:30 起床。大阪の実家から一時間半かけて通うので、一限があるときは6時に起きます。でも今日の一眼はオンデマンドなので、授業は後回しにしてゆっくり寝ます。9時の電車で乗れば間に合うので、朝の支度が終わったら出発時間まで尺八を吹きます。

10:40 2限、哲学特殊講義。ソクラテスについての講義です。専修の授業ではありませんが、社会学の教員免許を取るには必要です。高校で習ったことを基本に分かりやすく解説してくださるので、哲学が少し苦手な僕でもきちんとついていきます。

12:10 美術史の研究室へ移動し、家から持参したお弁当を食べます。普段あまり食堂は利用しません。お弁当は年下のきょうだいのぶんを作るついでに親が作ってくれますが、たまに自分で作ります。研究室にはいつも誰かがいて、同じ専修の先輩や同級生からいろいろ話を聞くことができますので、勉強になります。

13:20 3限、博物館経営論。学芸員の資格を取得するために必要な授業です。美術史専修の人は、学芸員を目指す場合でも学芸員関連の授業を受けるように言われています。学芸員経験のある先生が、美術館を運営する側の視点からお話してくださるので、美術館に行った時の視点が変わります。

14:50 数少ない空きコマです。空き教室に友達が集まっているので、合流して一緒にしゃべります。授業が多いと寝れるので、友達と過ごす時間が一番の心のオアシスです。この時間のうちに一眼のオンデマンドを受けておきます。

16:30 5限は鶴甲第一キャンパスで教職課程の授業を受けるので、文学部からみんなまで移動します。日本国憲法の授業は内容が少し難しい場合があります。オンラインで配布されたレジュメにパソコンで書き込みをします。大学生になってから紙でノートを取ることが減りました。

18:30 5限終了。友達と駅まで下山し、同じ電車で乗る人たちと一緒に帰ります。電車の本数が朝より少ないので、帰宅は20時半頃になります。

23:30 翌日の準備をして、就寝。

神戸大学文学部は2年生から専修に分かれるので、1年生のあいだはどの専修にするか悩むことができます。人文学全般に興味があり、専修を決めあぐねた私は各専修の先生に相談に行きました。先生方は学生に優しく接してくださり、いつも親身にお話をきいてくださるので、あまり緊張せず相談できます。一年生の前期にある各分野の入門の授業は、できる限り取っておくことをおすすめします。大学まで知らなかった学問でも、話を聞いてみると面白いと感じるかもしれません。また、文学部の先生をまとめて知ることができるチャンスでもあります。

文学部は、卒業だけを考えるなら時間割にはかなり余裕があり、バイトをはじめ自分の好みに合わせた様々な活動ができます。私は興味に合わせて授業を多めに取っています。教員免許の授業は大変ですが、共に頑張る文学部の友人がたくさんできるので楽しいです。友人たちとはよく中庭に集まって昼休みと一緒に過ごすのですが、友達の友達とどんどん集まってきて、だんだんと大きな集団になります。文学部は人数が少なく、大人数でいれば通るが同級生はいたい誰かの友達なので、ゆるやかに同級生みんなとなつていけるのが神戸大学文学部の良いところです。

授業もたくさん取っていますが、私はバイトもしているし、部活にもかなりのめりこんでいます。バイトは掛け持ちしていて、学校帰りに働いたり、休日を一日バイトに費やしたりしています。また、部活は邦楽部に所属していて、尺八を中心に和楽器をやっています。練習が少ない日は部屋に一日中入り浸って練習しているのに加えて学外でも個人的に尺八を習っており、休日は和楽器の演奏会を部員と一緒に見に行くこともあります。勉強と合わせると普段の生活はかなり忙しくなりますが、充実した毎日を過ごしています。

中村 心優
(NAKAMURA Miyu 2年生)
大谷高等学校卒業

(この文章は1年生時のものです)

1週間の時間割					
	月	火	水	木	金
1			Academic English Communication		初年次セミナー
2	Academic English Literacy	人文学導入演習 (英米文学)	健康・スポーツ科学実習基礎		知識システム入門
3	哲学入門	西洋美術史	情報基礎	日本美術史	美術史調査法
4	文学入門	フランス語初級	人文学導入演習 (芸術学)	フランス語初級	美術史資料演習
5					

1年生の授業では、11月末の専修決定に向けて入門系の授業をとることができます。私は幅広く興味を持っていたため、入門系の授業を多くとりました。必修の授業が少なく選択科目が多いため、時間割を自由に組めることは文学部ならではの魅力です。

ある1日の過ごし方

5:00 起床。
京都の実家から通学しているため、頑張って早めに起きます。この日は1限からなので早いです。2限からの日はゆっくり起床します。

6:00 電車で登校。
登校中は時間があるので、居眠りしつつレポート課題を進めたり、本を読んだりしています。六甲駅に着いてからは大学まで歩いて坂を登っていきます。

8:50 1限、Academic English Communication
リスニングやリーディングだけでなくグループワークもあり、授業を通して自然と友達が増えました！

10:40 2限、健康・スポーツ科学実習基礎
運動不足になりがちな大学生にとって体育はしんどいけど、ありがたい！種目も選択でき、私はエアロビクスでみんなと楽しく体を動かしています。

12:10 鶴甲第一キャンパスの食堂は混みがちなので、文学部近くの食堂まで移動して昼食をとりま。メニューが豊富で飽きずに毎日楽しく友達と昼ご飯を食べています。たまにキッチンカーで昼食やおやつを買うことも。

13:20 3限、情報基礎
この授業はオンデマンドで行われるので、学生ラウンジや図書館で早めに課題を終わらせて友達とおしゃべりしながら過ごします。文学部棟には緑がたくさんあるので天気がいい日は中庭の机で課題に取り組むこともあります。

15:10 4限、人文学導入演習 (芸術学)
前回の授業の質問に先生が答えてくださるので疑問点をなくしながら自身で考え、基礎的な知識と考え方を身につけることができます。

17:00 部活。部活を通して文学部はもちろん、他学部の友達もたくさん作ることができました！先輩方も優しく、楽しく活動しています。

19:30 下校。部活の友達と話しながら下山します。帰りに大学から見える夜景はとても綺麗なのでぜひ見てほしいです！

22:00 帰宅。夜ご飯を食べた後、漫画を読んだりしながらゆっくり過ごします。

24:00 就寝。次の日の授業は3限からなのでゆっくり寝ます。目覚ましは必須です！！

入門系の授業では、各専修について学ぶことができます。私自身、元々どの専修に入るか悩んでいたのですが、この授業を受けるとどの専修も魅力的に感じ、嬉しくもさらに悩むことになってしまいました。どの専修に入るかすでに決めている人も、他専修の入門が視野を広めるきっかけになるのではないのでしょうか。入学してすぐに行われる新入生歓迎ティーパーティーの場では各専修のことを先生や先輩方に直接聞くことができます。自分の学ぶものをじっくりと決められるのも神戸大学文学部の魅力の一つです。どの授業も一般的な見解にとどまらず、先生独自の見解や発展した内容にも言及されるので、柔軟に思考する面白さを知り、自身で思索を巡らせる時間も多くなるようになりました。元々読書や観劇が趣味でしたが、授業や思索を通して、今までと違う視点から見ることができるようにもなり、今までに増して役目しています。

私が大学に入るにあたって一番危惧していたのは友達ができるかという点でした。しかし、文学部では2年次から専修に配属のため、1年次では違う分野に興味を持っている同級生とも言語の授業などを通して知り合う機会が多く、すぐにたくさんの友達ができました。もちろん同じ趣味を持った人も多く、ついつい話が盛り上がりたしまうことも……。皆、受験を乗り越えてきたこともあり積極的に何事も取り組む友達との姿は毎日刺激ももらっています。

これまでの人生の中でこれほど自由に選択ができる経験も初めてなのでまだまだ慣れないこともたくさんあり、失敗することもあります。様々な経験を通して自身の成長を強く実感しています。私は大学生生活の間に部活動、留学、アルバイト、さらに教員免許も取ろうと考えています。やりたいことばかりでなかなか大変ですが、将来の自分を見据えて毎日楽しみながら一步一步進んでいます。神戸大学文学部はやりたいことを見つけ、深く学びたい人にとってうってつけの場所です！

先輩の足跡！ 学部時代の思い出、あれこれ

皆さんは大学で何をしたいと考えていますか？私の大学での目標は「視野を広げる」ことでした。そして神戸大学文学部は私のそんな思いに120%応えてくれました。

私はそもそも心理学や農学にも興味があり、それらの学問と教員免許取得が両立できる学校として神戸大学を選んではいたのですが、自分が少数派であるとは思っていたので、ある程度交渉が必要になるだろうと思っていました。しかし、文学部はなんと他の学部の授業も全て卒業単位数に含めており、同級生でも同じく他学部授業を取りに行く人が少なからずいたのです！おかげで何故か文学部で農場経営や、四次元空間について話し合うことができました。また、文学部内でも当然のように国文学の友人が英米文学や哲学などの授業をとり、社会学の友人が国語学の授業をとるなど他専修の人と交流する機会も多くあったため、互いの研究対象について違う視点からの意見を交換することもしばしばありました。実は、私は常にアルバイトと部活に忙殺されており、定まった勉強の時間を

取れませんでした。しかし、昼食時や通学路での友人との会話のおかげで気づきやひらめきを得ることができ、中身の詰まった学問をすることができたのではないかと思います。

このような会話を楽しめる友人、授業が多い教職課程を励まし合い乗り切った仲間たち、そして全てを諦めない私を優しく見守りつつ、思考を高めへと導いてくださった教授の方々との出会えたことは本当に幸いで、4年と思えないほど大幅に成長できた貴重な期間だったと思います。また、大学が山の上にあるというのも、初めはデメリットに思われるかもしれませんが、友達と文句も含め様々な話をしながら足を動かし、景色を楽しむことでストレスは軽減されます。さらに物理的にも広い視野をもつことで、気分が落ち込んでも自分の悩みなんて小さなことだと思えて、以前よりも物事を大きく捉え取捨選択をすることが上手になった気がしました。それに何よりとてもいい思い出になりますよ！

是非皆さんも、神戸大学文学部で広い世界を体感してみてください！



田上 絢萌
TANOUE Ayame

2022年3月卒業
私立四天王寺中学校
常勤講師



人程度)を神戸大学文学部が受け入れ、学生たちが丸々一年間を神戸で過ごし教育を受けるという画期的なプログラムです。2012年に始まったこのプログラムでは、これまで100人以上の学生が神戸の地を踏み、この街でのさまざまな経験を携えてオックスフォードへと戻っていきました。

彼女ら・彼らが神戸大学文学部で行う勉強の柱は二つです。一つはやはり「日本語」です。学生たちは、日常生活における日本語の会話能力はもちろん、学術的なレベルで求められる高い次元の読み書きや口頭での議論の能力を、午前中に行われる特別授業で学びます。これらを一年間こなすのは大変な作業でしょうけれども、それだけに、カリキュラムを終える頃には学生たちはわれわれ教員も驚くほどに日本語のスキルを向上させて帰国していきます。そして、もう一つの柱は「日本学」です。学生たちは、アニメ、映画、歴史、芸術、文学、祭り、宗教、ファッション、言語など、日本に関するさまざまな事柄に関心をもったことがきっかけでオックスフォード大学の日本学専攻に所属しています。こうした関心は、神戸大学文学部で日本の学生向けに開講されているさまざまな授業や、KOJSP演習と名付けられた論文指導演習への参加を通じて、学術的に意義のある具体的テーマ・問題設定の発見へと発展してゆき、最終的にその研究は修了式の日に行われる修了発表会での口頭発表と、論文集への寄稿という形で実を結びます。

さて、私がご紹介したこの話題は、神戸大学文学部への進学を検討中のみなさんとのような関係があるのでしょうか。ひとまずは、世界のトップに位置するとされる大学からのこうした学術交流を長年にわたり自信を持ってお引き受けできているくらい、神戸大学文学部の教育・研究体制は充実しているのだと言えるでしょう。ただ、それだけではありません。私が強調したいのは、みなさんと彼女ら・彼らとの交流です。オックスフォードの学生一人一人に関して、希望する日本の学生さんが「チューター」と呼ばれる役目を有償で担い、生活上や学業上の相談に乗ってもらうことになっています。また、月一回程度「インターナショナルアワー」と称して、日本文化の体験会(落語、書道、かるたなど)、茶話会や中庭で

のガーデンパーティーなど、オックスフォード生を含む世界各国の留学生と日本の学生との交流の場が設けられています。また、学生たちの関心は今しがた述べた通り多岐にわたりますから、授業の受講生や、関連する所属専修の学生との交流も盛んです。また、夏休みには希望する日本の学生がオックスフォード大学に短期留学する「オックスフォード夏季プログラム」という制度も例年好評です。こうしたさまざまな交流は、それ自体楽しいものであると同時に、みなさんが人や世界を見る視野を広げることに繋がります。

そして、ある意味ではさらに重要なことがあります。それは、「神戸大学文学部は学生たちのさまざまな関心にさまざまな仕方に応じてくれる場である」ということです。オックスフォードの学生たちのそれぞれが、日本にかかわる実に多種多様な関心をもちつつ神戸を訪れ、文学部においてその関心に応じた研究を進展させてゆくことは先に述べた通りです。このことは、みなさんにも当てはまります。神戸大学文学部は、人間と人間の営みを対象とする学である「人文学(humanities)」という括りのもとで、哲学・思想・歴史・言語・文芸・芸術・社会・地理・心と行動といった極めて広範な人間の営みをカヴァーする15もの専修から構成されています。入学生の多くは、人間や文化に関わるなんらかの(多くの場合漠然とした)関心を持ちつつ文学部という学部の扉をたたかれることでしょう。神戸大学文学部の50名余りの教員と15の専修は、そうしたみなさん一人一人の「きっかけ」的な関心を受けとめつつ、学術的な問いの発見と探究を引き出す「水先案内人」の役を引き受ける用意ができています。船長はみなさん自身です。

では、六甲の麓にある麗しいキャンパスでお会いできることを楽しみにしています。



KOJSPアドバイザリーボード長
哲学専修
茶谷 直人

② 文学部の授業科目 ― 「四年一貫で学ぶ人文学の多様な広がり」
文学部の学生が4年間に学ぶ授業科目は、全校共通授業科目と文学部の専門科目とに分けることができます。全校共通授業科目は、教養科目、外国語科目(教養科目(外国語系)、専門科目(基礎科目の外国語))などで構成されています。文学部の専門科目は、基礎科目、自由選択科目、卒業論文関連科目、卒業論文からなります。下の図に履修に関する学年ごとの大きな流れを示します。

1 年	2 年	3 年	4 年
教養科目(基盤系)	教養科目 (人文系、社会系、自然系、総合系)	専門科目	専門科目
教養科目 (人文系、社会系、自然系、総合系)			
外国語科目 (教養科目(外国語系)、専門科目(基礎科目の外国語等))	外国語科目 (教養科目(外国語系)、専門科目(基礎科目の外国語等))		
専門科目 (基礎科目)	専門科目		卒業論文

① 専修の決定 ― 「よく考えて自分の専門を決めることができる」

文学部には、哲学、文学、史学、知識システム、社会文化という5講座に15の専修があります。1年次の11月末頃に専修を決め、2年生からそれぞれの専修に所属することになります。自分は文学部でなにを研究したいのか、じっくり考えてから選ぶことができます。そのために、各講座ごとのガイダンスとも言える「入門」、人文学への導入をはかる「人文学導入演習」、そして各専修での研究の基礎を身につける「人文学基礎」など、学生の興味・関心に応じて選択できるよう、いくつかの内容に分けて1年生向けの授業が複数開講されています。これらを参考に、自分が進む専門を決定します。

LET Message Box



サムット エンゾ テイモ
交換留学生(フランス)

神戸での留学は、私にとって初めての日本滞在です。日本の文化や言語にずっ

と興味があり、フランスの大学で2年間日本語を勉強した後、「本場の日本で学びたい」「実際に日本の生活を体験したい」と強く思うようになりました。そして、神戸大学への留学を決意しました。

神戸大学では、日本語の授業に加えて、韓国語とフランス語の授業も履修しています。授業の内容はとても実践的で、クラスメートとのグループワークや発表も多く、積極的に日本語を使う機会がたくさんあります。

また、大学が主催するイベントに参加したことで、日本人学生と交流することができました。最初は緊張しましたが、何度か参加するうちに自然と会話ができるよ

うになり、友達もできました。友人との会話や交流を通じて、教科書では学べない自然な表現や文化的な背景を学ぶことができ、本当に貴重な経験になっています。

さらに、現在はアルバイトもしています。職場では日本語でのやりとりが必要なので、実生活の中で日本語力をさらに鍛えることができています。最初は難しかったですが、少しずつ慣れてきて、自信もついてきました。

この留学を通じて、日本語のスキルだけでなく、個人的にも大きく成長できたと感じています。新しい環境で生活することで、自分自身の性格や考え方にも変化があり、新しい一面を発見することができ

ました。また、日本の文化や人々の優しさに触れ、この国に対する愛情がますます深まりました。

友人や大学のプログラムを通じて、日本各地を訪れる機会もありました。京都や奈良のような歴史的な場所だけでなく、地方の自然豊かな地域にも行き、日本の多様な魅力を肌で感じるすることができました。

この留学は、私にとって一生忘れられない大切な経験です。日本で学び、生活し、多くの人と出会えたことに心から感謝しています。このような一期一会な経験を、できるだけ多くの人にも体験してほしいと思っています。



木村 理那
留学生チューター

私はフランスからの留学生のチューターを担当しています。日本語での書類作成、病院の電話予約、銀行での手続き

等、主に生活面でのサポートを行ってきました。

私はフランス文学を専攻しており、一回生の頃からフランス語の学習に励んできました。そのような私にとって、フランスからの留学生とチューターとして関わり、拙いながらもフランス語でコミュニケーションが取れたことは大きな喜びでした。書類作成の手伝いをする場面では、使用される語彙が難しく、説明に苦労することもありました。しかし、問題が解決して留学生の表情が明るくなるのを見ると、大きな達成感を得ることができました。また、互いに新しく学習した日本語とフランス語を教え合ったり、自国の文化を紹介しあったり、逆に私が知らなかった日

本の文化を教えてもらったりなど、とても貴重な経験を得ることができました。

このチューター活動を通して、柔軟に対応する力や責任をもって物事を遂行する力を培うことができました。そして互い

に歩み寄ってコミュニケーションを図る重要性和、その楽しさも学ぶことができました。今後も、多くの学生が留学生との交流を通して有意義な経験を得られることを願っています。



「オックスフォード夏季プログラム」

オックスフォード大学(University of Oxford)のハートフォード・カレッジ(Hertford College)での約2週間の夏季プログラムです。英国の歴史・文化・社会・文学などのトピックに基づいた英語学習を行います。プログラム期間中、参加者はキャンパス内の寮に宿泊し、オックスフォード大学生のRA(Residential Advisor、寮生活アドバイザー)による学習・生活のサポートを受けます。授業後や休日にはRAが企画する課外活動などに参加し、異文化交流を楽しむこともできます。



オックスフォード大学ハートフォードカレッジ

定の範囲内から自由に選択できますが、それらは講座ごとに細かく指定されていますので、注意が必要です。また、ひとつひとつの授業の学習を徹底するために、1年間で履修登録できる単位数には上限が定められています。したがって、履修にあたっては、入学後に配布される学生便覧やガイダンスでの説明に従い、各学期の始めに、どの授業を取りたいか、受けなければならないかを十分に考えて、計画的に登録してください。

③ 講義と演習 ― 「徹底した少人数教育と課題探究能力の開発」

文学部で高い割合を占める授業科目が、特定のテーマを探究する「特殊講義」と、数人から十数人で行う「演習」、いわゆるゼミです。実験やフィールドワークを含む「実習」も同じく少人数で行われます。中でも、文献や資料を講読したり、自分で選んだテーマについて研究報告を行い、受講者で議論を戦わせたりする「演習」は、専門分野の研究手法や考え方を習得し、自ら課題を発見し解決する能力を鍛えるうえで大変重要です。

④ 卒業論文

卒業論文は、文学部4年間の学習と研究の結晶です。自分で研究テーマを決め、指導を受けながら、論文作成のための調査や分析も自力で行ないます。これまでに挙げた授業科目から必要な単位数を取得した上で、原則として20,000字(400字詰め原稿用紙で50枚)程度の卒業論文を作成し、口述試験(口頭試問)に合格すれば、卒業となります。